

ライオン

一次データ流通基盤構築に
向けた実証実験へ参画
GHG排出量算定を産業界全体で効率化

ライオンは、ユニ・チャームが他の日用品メーカーや各種資材メーカー、一企業へ連携を呼びかけた脱炭素社会に向けた「一次データ流通基盤」構築に向けた実証実験へ参画する。なお、一次データ流通基盤の構築は、国内の日用品業界において初めての試みとなる。

今回の実証実験は、「G保」の2点について2024年12月完了を目指し、GHG(温室効果ガス)排出量の算定に必要な実証実験を進める。

一次データを共通のプラットフォーム上で流通させることを目的として行うもの。実証実験やその後の実装に向けた取り組みを通じて、デジタル技術を活用して一次データの流通を促進し、GXやDXによってGHG排出量削減の推進を目指す。

具体的には、「サプライチェーン連携の効率化」「データ秘匿性の確保」が期待されている。



バリューチェーン全体の排出量削減を進めるには取引先の協力が不可欠

9月27日、日用品業界大手数社による「GX/GHGに関するタウンホールミーティング」が行われ、第一部で環境省、経産省によるプレゼンテーションが行われた。

まず、環境省 地球観測局 地球温暖化対策課 脱炭素ビジネス推進室長

ずとも受信社が必要な情報を受け取ることが出来るか否かを確認し、業務効率の状況を検証する。

次のステップとして、2025年以降、実証実験の成果を公表し、サプライチェーン全体でのデータ流通プラットフォームの社会実装に向けて準備を進める。

GHGの可視化は業界が一致団結して取り組むべき分野

第2部では、参画企業によるトークセッションが行われた。

主要企業の実務責任者が登壇し、「これまでは全て自社で排出量を計算してきたが、新たな枠組みにより一次データを手でできるようにすれば、精度の向上が期待できる。最終的に家計簿アプリのようなもので各家庭のCO₂排出量が見える化できるようにすればCO₂排出量の6割を占める家計消費の行動変容にもつながるため、今回の実証実験はその第一歩と捉えている」(花王 ES G活動推進部 高橋正勝部長)、「GHG(温室効果ガス)の可視化」は責任や義務ではなく、当然あるべきものとして取り組み、製品やサービスに反映させていくことがポイントだ。企業連携という点で当社は花王さんとパウチ容器のリサイクル

G金融の拡大に伴い、資金が脱炭素に向かい始める中、投資家やサプライヤーへの脱炭素経営の見える化が企業価値向上やビジネスチャンスにつながる時代へと変革しつつある。大企業や金融機関が取引先に排出量情報の提供や削減を求めるようになり、中堅・中小企業にも波及し、サプライチェーン全体での企業の脱炭素経営に進展がみられる。こうした中、バリューチェーン全体の排出量削減を進めるには取引先の協力が不可欠となる。取引先に働きかけ、取り組みに協力してもらい共同で排出量削減に取り組む必要がある。バリューチェーン全体での脱炭素化を推進するために、サプライヤーエンゲージメントを代表とする取引先企業に対しての働きかけの取り組みをモデル事業として支援する」と語った。

続いて、経済産業省 GX推進企画室 室長の荻野洋平氏が「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

「GX2040ビジョンに向けた検討状況」について、「2050年カーボンニュートラル実現期には、『どれだけ排出しているか』そのものが特に重要となることから、製品そのものが持つ排出量(カーボンフットプリント)が評価指標となることが考えられる。他方で、一足飛びに脱炭素に向かうことの困難さから、過渡的に製品の排出削減量(削減実績量や削減貢献量)もあわせて評価指標とすることで、取組主体の削減努力を促すことも重要」といえる。製品のGX価値として整理し、需要側が脱炭素・低炭素製品を好んで適切な対価を支払う指標としていくことが必要だ」と述べた。

ヒット商品

母子手帳



第431回

「温泡シリーズ」アース製薬

アース製薬は8月20日「温泡(おんぽう)」シリーズを全国でリニューアル発売した。ユアール発売した。温泉成分を配合した炭酸入浴剤「温泡は、素材本来の自然な香りにこだわって、1箱で4種類の香りとう湯色を楽しめる。2015年10月の発売以来、香りの良さと種類の豊富さなどが高く評価されてきたが、「もっと香りが長く続いてほしい」という消費者の声を受け、リニューアルに至ったという。

今回のリニューアルでは、パッケージを一新するとともに、錠剤を入れた瞬間に香りが広がり長く持続する「アロマキープ処方」を採用した。また、入浴剤において香りは温浴効果や疲労回復と同等に重視されている要素であるため、香りにも徹底的にこだわった。同社では、産地にこだわった精油を厳選して配合してお

り、「温泡」こだわりの「温泡」では徳島県産の木頭ゆずを、「温泡」こだわりでは青森県産の青森ヒバを使用する。浴室はただの入浴空間ではなく、心身のリラクゼーションを行うための1つの空間として重要視されている。

さらに、入浴剤は消費者が買い回りの中で楽しむ傾向が強まっている。「温泡」シリーズでもその時々の体調や気分に合わせて選べるよう、香りや成分のバリエーションを豊富に取り揃え、ライフスタイルに合わせた入浴体験をサポートしている(同社)

「アロマキープ処方」を採用した。また、入浴剤において香りは温浴効果や疲労回復と同等に重視されている要素であるため、香りにも徹底的にこだわった。同社では、産地にこだわった精油を厳選して配合してお



温泡シリーズをリニューアル

私の

H & B

日記

で気になるお茶を調べてから会場に向かった。いざ入場すると会場がお茶の優雅な香りに包まれており、どのような味のお茶が待っているのだろうと期待感がふくらんだ。

コーヒー派、お茶の世界へ

実際にさまざまなお茶を試飲してみると、想像以上に幅広い種類の香りがあることに驚いた。特に筆者が驚いたのが、ハーブティーだ。ハーブティーはリラックス効果や美容、健康など、ハーブの種類によって様々な効果を期待することができる。試飲する前は、ハーブティーについて味にクセがあり好みが分かれやすいイメージを持っていたが、実際に試飲すると、思っていたよりも、鼻から抜

ポットすら持っている。しかし、普段なかなか会うことのできる知人からの誘いであり、このような機会が自分一人では訪れない場所だろうと感じたため、せっかくならと参加を決意した。試飲もできると聞いていたので、事前に公式サイトで

(上)